

鶏肉情勢

項目	内容
供給	<p>1. 国内</p> <p>(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和5年7月末実施)によると、7月の推計実績は処理羽数58,621千羽(前年比100.4%)、処理重量175.3千ト(同101.2%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.6%下方修正、処理重量は0.7%上方修正された。熱死等の影響で処理羽数は下がったものの、増体はよく処理重量は上回る結果となった。処理羽数・重量共に中部地区以外のすべての地域で前年同月を上回る実績となっている。</p> <p>(2) 8月の計画は処理羽数、処理重量とも前年を上回る見通しとなっている。北海道・東北地区、関東地区、中部地区、近畿・中国・四国地区、北部九州地区、南九州地区、全地区で前年を上回る見通しとなっている。ただ、8月に入り、北海道・東北地区で例年以上に猛暑日も多く観測され、熱死が増えてきたとの報告が上がっており、生産への影響が懸念される。工場の人員不足は技能実習生が来日するようになったことで、少しづつ解消されており、加工品(切り身・手羽中二ツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の生産は徐々に回復していくと思われる。</p>
	<p>2. 輸入</p> <p>(1) 財務省8月30日公表の貿易統計によると令和5年7月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から▲11.0千トの46.7千トで、国別ではブラジルが前月▲7.7千トの33.8千トでタイが▲2.9千トの12.2千トとなり、ブラジル・タイともに前月より減少となった。前年同月の実績に対しては+1.1千トとなった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、8月が48.8千ト(前年比103.0%)、9月は43.3千ト(前年比92.5%)となっている。ブラジルでの鳥インフルエンザ発生に伴う発生州からの一時輸入停止措置の影響もあり、9月は前月時点の予測から減少となっている。ブラジル産については一時輸入停止措置が解除されたことにより、価格が下降傾向となっており、今後の国内市場への影響が懸念される。タイ産については引き続き価格は上昇傾向となっており、国産ムネ肉への影響が考えられる。</p> <p>(2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から▲0.2千トの39.5千トで、国別では中国が▲0.6千ト、タイが+0.2千トとなった。前年同月の実績に対しては▲4.3千トとなり、前月比・前年比ともに下回る結果となった。タイの生産は引き続き安定しており、7月実績は増加となった。価格については依然として高騰しており、上昇傾向が予想される。外食についてはインバウンド需要等で回復しつつあり、中食・総菜向け等の引き合いも継続して強い状況である。</p> <p>(3) 財務省が8月30日に公表した貿易統計によると7月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より4.2%下降し、鶏肉調整品は前年同月より4.1%上昇した。国別ではブラジル産の価格が350円/kg(前月比27円高)、タイ産が395円/kg(同23円高)となっている(国別平均価格)。前年比ではブラジル・タイともに下降した状況である。ブラジル産は7月実績は上げ基調となっているが、一時輸入停止措置が解除された影響もあり、国内市場価格は下降傾向となっている。タイ産については現地価格が引き続き上げ基調になっており、今後の国産鶏肉への影響を注視したい。</p>
需要	<p>1. 家計消費</p> <p>(1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和5年7月の生鮮肉消費(購入)は数量3,927g(前年比96.8%)、金額6,261円(同100.8%)と、数量は前年を下回り、金額は前年を上回った。鶏肉は数量1,361g(同94.6%)・金額1,422円(同105.7%)・単価104.5円/100g(前年同月+11.0円)と、数量のみ前年を下回る結果となった。調理食品が金額13,202円(同106.2%)、外食が14,657円(同114.5%)となっている。光熱費の高騰やあらゆる商品の値上げが相次ぐことや、猛暑により調理が敬遠され中食需要が伸びている。外食においても、行動制限もなく、加えて入国規制緩和による外国人旅行者によるインバウンド需要もあり、コロナ前に戻りつつあると考えられる。</p>
	<p>2. 量販・卸</p> <p>(1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和5年7月の食品売上高は全店ベースで前年比105.5%と前年を上回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同104.0%、既存店ベースは同102.7%となった。また、畜産部門の売上高は約1,142.7億円で全店ベース同103.9%、既存店ベース同102.4%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、猛暑により季節商材の販売が好調。夏祭りやイベント需要も回復し、光熱費の高騰や猛暑による調理敬遠を追い風に特に総菜部門が好調とのこと。畜産部門においては、精肉全般で相場高が続いているが、豚肉・鶏肉では安価な部位や涼味商材を中心に好調。牛肉では国産相場は高値が続いており、輸入牛のほう動きがよい。ステーキやバーベキュー需要は好調。加工肉を含め、低価格商品に需要がシフトしており、売上高は確保できて利益が取れない状況が続いているとのこと。</p>
	<p>3. 業務・加工筋</p> <p>(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合によると令和5年7月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比105.8%の4.9千トとなった。うち国内品は同94.3%の3.7千トと前年を下回り、輸入品については同165.4%の1.2千トと前年を上回った。</p>
在庫	<p>1. 令和5年7月</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産30.6千ト(前年比106.0%・前月差+2.0千ト)、輸入品129.6千ト(同107.0%・同▲4.0千ト)と合計で160.2千ト(同106.8%・同▲2.0千ト)となった。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、7月の出回り量は国産131.5千ト(前年比97.5%・前月差▲10.8千ト)、輸入品50.7千ト(同116.4%・同▲0.9千ト)と合計で182.1千ト(同102.1%・同▲11.7千ト)となった。8月以降の国産在庫については、販売に苦戦しているモモ肉や年末特殊品の製造等により増加していくと予測する。輸入鶏肉については(独)農畜産業振興機構(ALIC)の予測では、入荷量は、8月は、鳥インフルエンザが発生した影響によりブラジル産の輸入量は減少するものの、タイ産の輸入量が増加することから、前年をやや上回ると予測されている。出回り量は前年をわずかに上回る予測のため、8月の期末在庫は前年同月を上回ると予測される。</p>
相場	<p>1. 令和5年8月動向</p> <p>(1) 令和5年8月の月平均相場は、モモ肉674円/kg(前月差▲35円)・ムネ肉383円/kg(同▲15円)正肉合計で1,057円/2kgと前月を50円下回り、前年同月を54円上回った。モモ肉相場は月初688円、月末は674円となり(昨年は月初644円、月末652円)、昨年の相場を上回った。猛暑日が続いて、北の産地では、例年にない暑さのため、熱死の増や増体の悪化の声もきかれるが生産は順調に推移している。モモ肉においては、相場が下がってきたことで、スーパーでは2桁の価格で特売を打つ店舗も増えてきたが、通常価格を下げるまでには至っていない。相場高騰の煽りや、気温上昇の影響を受け販売は苦戦し、凍結回しが増えてきている。ムネ肉は鳥インフルエンザによる採卵鶏の親鳥不足の影響や、気温上昇に伴い涼味用商材としての需要もあり、生鮮品・冷凍品とも販売は順調である。相場はモモ肉は下げ傾向にあるが、8月も引き続き高水準を維持した。</p>
	<p>2. 見通し</p> <p>(1) 9月の生産量は、前年を上回る計画である。ただ、残暑がきびしく30℃を超える日が続いているため、生産・販売への影響が懸念される。気温上昇の影響で国産モモ肉の苦戦が続いているが、9月中旬以降は売り場の棚割り変更により、販売が伸びていくことが予想される。ムネ肉においては、涼味用商材として需要もあり、引き続き順調に推移すると思われる。親鳥不足の影響もあり、凍結品の引き合いは相変わらず強い。以上のことから、モモ肉相場は下げの月平均650円、ムネ肉相場はもちあいの月平均380円と予測する。</p> <p>(2) 8月18日、ブラジルのサンタカタリーナ州における鳥インフルエンザの清浄性が確認され輸入停止措置が解除された。早期に輸入が再開されたことで流通への影響は少ないと思われる。ただ、ブラジル産鶏肉価格は暴落しているとの話もあり、今後の国産鶏肉の反応も注視が必要である。9月も、30℃を超える日が続くと思われ、モモ肉の販売は引き続き苦戦が続くと思われる。しかし、今後も食品をはじめ様々な物価高騰による値上げが続くことから、節約志向が働き、他の畜種と比較すれば安価な鶏肉の販売は底堅く推移すると思われる。モモ肉は下げ基調であるものの鶏肉相場は例年にない高水準で推移していくと思われる。</p>

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R4年累計		R5年7月推計実績		R5年8月計画		R5年9月計画		R5年10月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	774,648	100.1%	62,101	98.4%	67,471	100.5%	68,156	100.5%	69,613	100.5%
処理羽数	737,217	100.2%	58,621	100.4%	60,886	102.4%	61,016	102.6%	63,193	100.5%
処理重量	2,224.1	99.9%	175.3	101.2%	179.6	103.1%	181.1	102.8%	187.4	98.7%

※参考資料: ㈱全国食鳥新聞社発行「PMIN」

輸入動向 単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年累計	574.5	595.8	96.4	525.8	481.0	109.3	1,100.3	1,076.8	102.2	52.2	47.8
R5年2月	47.1	49.6	95.0	32.1	38.8	82.7	79.2	88.4	89.6	59.5	40.5
R5年3月	47.5	45.1	105.3	40.6	47.8	84.9	88.1	92.9	94.8	54.0	46.0
R5年4月	47.4	43.6	108.8	39.9	44.1	90.4	87.3	87.7	99.6	54.3	45.7
R5年5月	51.7	42.5	121.7	35.4	42.1	84.1	87.2	84.6	103.0	59.3	40.7
R5年6月	57.7	52.2	110.6	39.7	46.2	86.0	97.5	98.4	99.0	59.2	40.8
R5年7月	46.7	45.6	102.3	39.5	43.8	90.1	86.2	89.4	96.3	54.2	45.8

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年平均	1,510	1,526	99.0	1,448	1,410	102.7
R5年2月	1,402	1,483	94.5	1,475	1,404	105.1
R5年3月	1,497	1,550	96.6	1,511	1,439	105.0
R5年4月	1,572	1,512	104.0	1,566	1,368	114.5
R5年5月	1,485	1,476	100.6	1,530	1,403	109.1
R5年6月	1,455	1,433	101.5	1,492	1,375	108.5
R5年7月	1,361	1,439	94.6	1,422	1,345	105.7

※参考資料: 総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯2世帯あたり)

相場(年別・暦年) 単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954
R4年	662	348	1,010

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R5年2月	25.0	33.9	73.7	128.1	129.3	99.1	153.1	163.2	93.8
R5年3月	27.0	32.5	83.2	126.9	125.2	101.4	153.9	157.7	97.6
R5年4月	27.5	31.3	87.9	119.5	116.3	102.8	147.1	147.6	99.6
R5年5月	29.3	31.2	94.2	127.5	115.7	110.2	156.8	146.9	106.8
R5年6月	28.6	30.5	93.7	133.6	119.1	112.2	162.2	149.6	108.5
R5年7月	30.6	28.9	106.0	129.6	121.1	107.0	160.2	150.0	106.8

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年平均	662	641	103.3	348	313	111.2	1,010	954	105.9
R4年度平均	702	627	112.0	371	317	117.0	1,073	944	113.7
R5年5月	774	624	124.0	408	321	127.1	1,182	945	125.1
R5年6月	745	624	119.4	405	326	124.2	1,150	950	121.1
R5年7月	709	637	111.3	398	340	117.1	1,107	977	113.3
R5年8月	674	649	103.9	383	354	108.2	1,057	1,003	105.4
R5年9月	(650)	667	97.5	(380)	364	104.4	(1,030)	1,031	99.9
R5年10月	(670)	697	96.1	(380)	376	101.1	(1,050)	1,073	97.9

※()は見通し